

岩国市文化協会会報

第 1 号

平成19年3月20日

編集 岩国市文化協会
発行

〒740-0017

岩国市今津町1-9-28

岩国市教育委員会

生涯学習課内

印刷 (有) 国 際 総 合

岩国文化



国民文化祭「橋の祭典」の一環として錦帯橋を背景に薪能が催されました。数千人が来場、幽玄の世界に浸りました。演目は「船弁慶」。義経と静御前の別れや知盛の怨霊を描いています。

【主な内容】

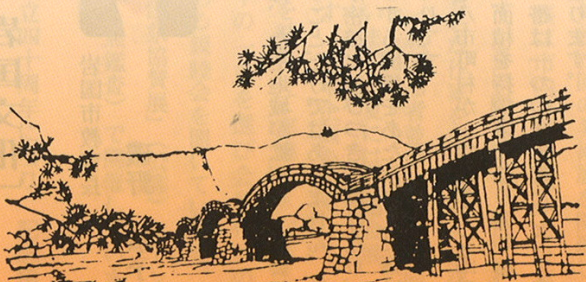
ご挨拶

国民文化祭特集

文化功労賞等表彰

団体紹介

行事報告



創刊によせて



岩国市文化協会
会長 藤谷 光信

「岩国文化」の創刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

岩国市文化協会は創立以来、今年で五十二周年を迎え加盟百二十団体と名実共に岩国市の文化を支える大きな柱としてその役目を果たして参りました。これもひとえに協会加盟の会員の皆様や歴代の会長、理事などの役員の方々、裏でささえていただいた事務局の皆さまの永年に亘る努力の積み重ねの賜です。

そもそも、「文化」とは、広い範囲の意味を有しています。政治、経済、科学、歴史、宗教など、およそ人間の社会生活すべての分野に関わりをもっていますが、平素、私共が使用する「文化協会」の「文化」とは芸術文化を指しています。

文化協会へ加盟されている方は、各種の芸術活動にアマチュアとして楽しく気軽に参加している団体もありますし、高いレベルの芸術家や指導者として全国に知られている著名な先生のグループもあり、多種多様なバラエティーに富んだ協会で

す。そして、岩国市を誇りに想い、地域の文化や歴史を大切にし、助け合い尊び合うのが「岩国市文化協会」です。

この愛すべき岩国市の文化の振興を考える時、私は街を歩けば何処かで琴や鼓の音が聞こえ、例えばそれが稚拙であつても子どもたちのピアノやバイオリンの練習の音や心にしみわたるコーラスのひびき、また通りにはお花の稽古に通うのか、花を手にした女性などの行き交うような、うるおいのある環境になつてほしいと思います。

「文化」の語は、明治時代に外国語の「カルチュア」を邦訳したのがはじまりだときいていますが、そもその語源は「耕す」という意味です。今後、日々の生活の営みのなかで「ひとくわ、ひとくわ」耕して、潤いのある、心のときめく創作に心し、文化団体の育成にも意を尽くして行きたいと思えます。

お互いに助けあい、切磋琢磨し、岩国市文化協会の充実発展を心より願つて、創刊の言葉と致します。

ご挨拶



岩国市長
井原 勝介

岩国市文化協会会報誌「岩国文化」が発刊されますことを心からお喜び申し上げます。貴協会におかれましては、発足から今日まで半世紀の間、岩国市の文化の発展に多大なご貢献をいただいておりますことに對し、深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。ちょうど一年前、合併により新しく、広くなった岩国市は、錦川に代表される豊かな自然や錦帯橋に象徴される歴史・文化遺産、多くの偉人を輩出した教育風土など、文化を育む優れた環境の中にあります。こうした環境を生かし、市民が高度な芸術文化に触れたり、保存し伝える、文化の薫り高いまちづくりに取り組んでまいります。どうか、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。会報誌の発刊を契機に、会員や市民の情報交換が促進され、文化活動がさらに活発になりますことを期待いたしております。

終わりに、貴協会の今後ますますのご発展を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

文化振興の橋架け 「岩国文化」



岩国市教育長
磯野 恭子

合併とは、ただ地域が拡がり、都会になるということだけではありません。地域の人々が密接に結びつき、助けたり、共感したりする関係をあたりまえに築ける地域づくりです。

岩国市も八市町村が一つになつて山口県一大きな面積を持つ市になりました。錦川流域一帯は一つの文化圏としてくらすことになりました。

各地方にはその地に咲いた文化・歴史・伝統があります。しかし、合併後は一つのコミュニティとして「地縁」を共有していかなければなりません。バイオリンもチェロも一つの楽譜に添つてこそ、オーケストラの演奏は成り立ちます。

このたび、文化協会の皆様念願の会報誌「岩国文化」が発刊されました。お互いの活動や思いを紹介し、情報を交換し、将来の夢を会員に伝えることでオーケストラの演奏が鳴り響くでしょう。文化振興は人・地域・時代のアンサンブルなのです。

第21回国民文化祭・やまぐち2006開催！

岩国市では平成18年11月3日から12日までの10日間に、6事業が開催されました。

■全国こどもブックフェスタ

「未来へつなぐ出版文化の底から」をテーマに、国民文化祭やまぐちは「全国こどもブックフェスタ」を玖珂こどもの館をメイン会場に開催しました。



10日間連続の行事でしたが、多くのスタッフに支えられ、子どもたちと作家や本との「であい」を演出することができ、たくさん感動が生まれました。

■合唱の祭典

全国から合唱を愛好する人々が集い、シンフォニア岩国で「合唱の祭典」が開催されました。



■文芸祭「短歌」

が、美しい歌声と個性豊かな演出で素晴らしい合唱を披露しました。皆で歌う喜びが心に響き、会場は観客の皆様の盛大な拍手と感動の涙につつまれました。

4月から6月の期間、作品を募集し、一般、小中高あわせて約4万首（過去最多）もの作品が集まりました。

11月11日に歌人と歩く文学散策を開催。歌人の松平盟子氏とともに宇野千代生家、錦帯橋周辺を楽しく散策しました。翌12日は、岩国市民会館にて「短歌大会」を開催。河野裕子氏の講演、選者による選歌講評、表彰式が行なわれました。



■街なか生活文化祭

アートフェスタいわくに

錦帯橋周辺に広がる町（岩国地区）を舞台に、岩国の歴史と文化に触れる多様な催しを行ないました。

約50の事業により、地域や世代を超えた新たな交流が生まれ、岩国の文化を継承し全国へ発信する大きな力となりました。



■橋の祭典

錦帯橋を中心に、橋にまつわる13の多彩な事業が開催され、橋と人々の暮らしとのつながりを見つめなおす機会となり、錦帯橋の歴史と文化が全国に発信されました。

12日夜には、かがり火に揺れる錦帯橋の木造美を背景に薪能が開催され、来場した数千人の人が幽玄の世界に浸りました。



■オーケストラの祭典

11月12日、「交流」のキーワードのもと、県内の運営スタッフ161名と全国から集まった出演者842名は、来場者1025名を迎え、みごとな「オーケストラの祭典」を創りあげました。ジュニア・大学・一般の三つの合同オケを作り演奏するスタイルは、出演者の心をつけました。著名な指揮者のもと、名曲を演奏し、貴重な体験となりました。





栄えある受賞 おめでとうございます。

教育委員会表彰

岩国市文化功労賞

河上 照子（かわかみてるこ）

岩国同人俳句会や岩国俳句協会の会長として活躍し、「岩国市民俳句大会」では指導的役割を果たすなど、俳句文化の向上に貢献。

中 村 源 治（なかむらげんじ）

岩国喜謡会の会長として活躍し、高い指導力により弟子の育成に努めるとともに、各種能楽の公演を積極的に計画・実施するなど、能楽文化の向上に貢献。

岩国市民マンドリンクラブ

長年にわたり、高い音楽性を有して定期演奏会の開催や各種演奏会への出演など、活発な活動を展開するとともに、各種音楽団体や文化団体との交流に積極的に取り組むなど、音楽文化の向上に貢献。

岩国市芸術文化栄光賞

片 原 政 子（かたはら まさこ）

第21回国民文化祭・やまぐち2006文芸祭「短歌大会」一般の部において、文部科学大臣賞を受賞。

村 本 敏 子（むらもと としこ）

第21回国民文化祭・やまぐち2006生活美術展押し花部門において、文部科学大臣賞を受賞。

文化協会表彰

（敬称略）

久 能 賞

三分一 寿美子（さんぶいち すみこ）

地方文化の会・岩国の顧問として活躍し、文学研究の場の発展と後進の育成に尽力するとともに、自らも清楚で緻密な作品を発表するなど、文化の発展に貢献。

藤 中 弘 山（ふじなか こうざん）

新都山流尺八山口県支部岩国幹部会会長として活躍し、各種邦楽演奏会の大会開催に尽力するとともに、自らも卓越した技を披露するなど、邦楽文化の発展に貢献。

文化功労賞

小 國 祥 山（おぐにしやうざん）

岩国書道協会の会長として活躍し、後進の育成や書道展の企画運営に尽力するとともに、自らも各種美術展覧会で優秀な成績を収めるなど、多大な成果を挙げる。

神 垣 正 枝（かみがき まさえ）

長年にわたり、岩国市新美術協会の運営に尽力し、ほかの団体との交流を深めるとともに、自らも美術展覧会に出品し高い評価を得るなど、多大な成果を挙げる。

小林 はつ子（こばやし はつこ）

岩国若葉会の役員を歴任し、岩国俳句協会理事として活躍し、会の運営に尽力する

とともに後輩の指導にあたり、俳句文化の向上に貢献。

佐 藤 春 波（さとう しゅんぱ）

岩国市小原流会の役員を歴任し、長年にわたり弟子の育成に努めるとともに、各種いけばな展に積極的に出品するなど、多大な成果を挙げる。

突 貫 雅 美 世（つきぬき まさみよ）

正派邦楽会中国支部山口県地区幹事、岩国邦楽協会理事として活躍し、優れた指導力により弟子の育成に努めるなど、邦楽文化の向上に貢献。

丸 茂 芙 美 代（まるも ふみよ）

岩国官休会副会長、岩国茶道連盟理事として活躍し、各種大会の運営や後進の育成に尽力し、茶道文化の向上に貢献。

文化奨励賞

紺 谷 世 津 子（こんたに せつこ）

エメラルドダンスクラブの会長として活躍し、各種大会で成果を挙げるとともに、指導者としてダンスの普及に貢献。

中 谷 久 江（なかたに ひさえ）

「劇団のんた」の理事として活躍し、県民文化祭などの公演では多様な役を演じて高い評価を受けるとともに、後進の育成にも積極的に取り組む。

正 木 友 美（まさき ゆみ）

フォーークアートペインティングの講師として活躍し、各種展覧会で成果を挙げる。

団体紹介

「心ひとつに七十年」

岩国市文化協会副会長

佐々生君子

岩国市文化協会の一員である茶華道連盟は、茶道五流に香道を入れて六流、華道も盤景を入れて六流、合計十二の流派が心を寄せ合い協議を重ねて、市の文化行事に参加しております。

昨年の第21回国民文化祭には、街なか華道の各流派が大小の花を生けて和やかな雰囲気を出し、茶道も市内三ヶ所に茶席を設け大勢のお客様をおもてなしました。お茶やお花のように立場の違う団体がどうして仲良く出来るの？とよく聞かれますが、岩国には次のような伝統があるのです。

大正から昭和へと時代が移る頃、岩国には指導教授の後継者がなく、茶華道は衰退の一途を辿りましたが、その頃、志を立て広島まで通って資格を得た若い教授者が生まれました。入門者も少しずつ増えてきた昭和十一年春、三千家の代表西川、木村、藤本の三氏は流派を越えて一体となり、吉香神社の御前で感謝の奉茶祭を催されたのです。大変な賑わいであったと聞きます。この時、この会は未来永劫に続けと遺言され、これが伝統となったのです。

能楽部門

岩国喜謡会

本会は、能楽喜多流の謡・仕舞を稽古し、その成果を年二回定期的に発表しております。

会員は約二十名、中村源治、貴美子夫妻を指導者として週一回の稽古をしております。

また、年三回程度、喜多流職分粟谷能夫師の指導を直接受けております。発表会は、定期的には、春は主としてシンフォニア岩国、秋にはホテルかんこうを会場として実施しております。数年に一度の割で職分の先生数名の参加による本格的な舞囃子を含む会なども催しており、今後も続けていきたいと思っております。

その他の活動といたしましては、有志による全国会などへの参加や男性会員による宮島桃花祭神能への地謡方参加を行なっております。これまで、宮島神能では、三度に亘って中村源治による能のシテ参加があります。シンフォニア岩国では、中村貴美子による能のシテ、羽衣を実施しております。



今後は更に、市内外の能楽愛好者との交流を行ない、伝統芸能としての能楽を発展させていきたいと願っております。
(有馬かほる 記)

美術部門

岩国新美術協会

昭和二十二年に産声をあげた「岩国美術研究所」を前身として、地域の美術文化の創造と普及をめざして昭和二十五年に「岩国美術協会」が設立されました。そして、十九年間の活動の後、昭和四十三年に、「岩国新美術協会」が誕生し、現在に至っております。

本会は、毎年三回的美術展を開催し、その内の二展は市内及び近郊から公募する美展です。春に開催する「新作展」(公募)は著名な作家を招き審査・講評を受けて、一般出品者並びに会員の向上に資しています。夏には「協会展」が開かれます。毎年企画を工夫して、会員の総力を結集して実施しています。その会期中の一日を選び会員相互の「和」を深める親睦会を開いています。秋には「岩国祭協賛展」(公募)をアンデパンダン(無鑑査)で開催しています。

本年は設立四十周年に当り、記念協会展の開催及び記念作品集の発刊を企画しています。
(半田幸男 記)

茶道部門

表千家同門会山口県支部岩国地区

秋の深まり行く晴れ間の一日、昨年十一月二十四日、宇野千代生家を会場に、岩国茶道連盟が表千家担当でもみじ茶会を催しました。毎年、宇野千代の生誕月に茶道連盟諸流が交替で担当し、十一回目を迎えたのです。

当日は天候に恵まれ、庭内百余本の楓が黄、淡紅、赤と多彩で、一同目を見張りました。青々としたすぎ苔と相映つて、別世界に入った心地でした。お庭の一隅に朱の野点傘を立て、立礼卓でお客様に「いがもち」をそえ、薄茶を差し上げました。また、当日は木炭自動車の送迎やボランティアによる案内で、観光客も



多く、七五〇余人の入庭がありました。美しい景色に誘われ、カメラマンがあちこちで撮影をされ、ほ、えましい風景でした。各流の先生方には、ご多忙の中多数ご来席頂き、大いに茶会を盛り上げて下さり、感謝申し上げます。前日から同門会役員総出で掃除、準備をいたしました。また、宇野千代顕彰会やNPOの方々のご助力を得、つつがなく心豊かな一日を終えましたことを感謝申し上げます。

(河下禮子 記)

文化協会行事報告(平成18年度)

平成18年	4月21日	第一回理事会
	4月25日	平成十八年度山口県文化連盟総会出席
	5月10日	企画委員会
	5月22日	第二回理事会
	6月2日	代議員会
	10月12日	企画委員会、会員委員会
	10月15日	岩国まつり「国民文化祭・やまぐち2006」PRパレードに参加
	11月3日	「国民文化祭・やまぐち2006」開会式出席
平成19年	11月24日	第一回「会報」編集委員会
	12月4日	事業委員会
	12月8日	第三回理事会
	12月22日	第二回「会報」編集委員会
平成19年	2月2日	第三回「会報」編集委員会
	2月16日	第四回「会報」編集委員会
	2月25日	岩国市文化功労賞等表彰式・祝賀会
	3月8日	第五回「会報」編集委員会
	3月16日	第四回「事会」

文化協会役員紹介(平成18・19年度)

顧問	井原 勝介
会長	藤谷 光信
副会長	佐々生君子
	重慶 光風
	岩見屋 健
理事長	元島 祥次
常務理事	大崎 三雄
理事	安東 栄一
	石川 善久
	井原多佳子
	岩岡 輝吉
	江村 恒子
	小國 正巳
	片原 政子
	河上 照女
	近藤 順子
	田村 順玄
	中谷 実
	中村 源治
	藤間勘三津
	藤本 豊貴
	松本あけみ
	宮崎 裕美
	宮本歌千穂
	森脇 子雄
	山下 好雄
	米光 駿風
	藤中 弘山
	堀 豊輝
監査	
	文学
	生涯学習課
	合唱
	音楽
	歌謡
	華道
	茶道
	書道
	短歌
	俳句
	クラフト
	演劇
	映像
	能楽
	邦舞
	民謡
	高校書道
	洋舞
	邦楽
	絵画等
	盆栽
	吟剣詩舞

(三月一日現在)

編集後記

弥生三月、目に注ぐ光、頬つたう風、足元に生きる草花にも春の穏やかなおとないを感じる昨今となりました。

さて、このたび、長年の懸案であった文化協会の会報「岩国文化」が発刊の運びとなりました。関係の皆様は、心より厚くお礼申し上げます。

「読まれ、親しまれる会報」とするよう編集に心がけました。

ささやかではありますが、会報を通じて、文化情報の提供、文化活動の紹介、抱負の交換などを行ない、文化活動の活性化や文化的風土の涵養のお役に立てば幸甚です。

今後、皆様方の暖かいご支援・ご協力をいただき、本紙が健やかに育っていくようよろしくお願い申し上げます。(編集委員：久村、吉村、武重、元島)